

Young Art YOHOKU

Vol.2

<作家略歴・ステートメント>

荒井志帆

OMJOOSOO

數本冴英佳

亀山晴香

川村香月

今野裕結

さかいふうか

佐々木莉央

佐藤唯

佐藤結

しょうじこずえ

TOKIWA

蓮實吏生

横山信人

わらおびびし

荒井志帆 Shiho Arai



Instagram

1986年 宮城県出身

東北芸術工科大学 芸術学部美術科 洋画コース卒業

<主な展示>

2024年 「荒井志帆個展 - 光の結晶 -」 / 伊勢丹浦和店 6階 ザ・ステージ #6 アート / 埼玉

2023年 「NEO POP PROJECT PART2」 / 神戸阪急本館 4階アートギャラリー / 神戸

2023年 「大丸東京店 × 八犬堂プレゼンツ ヤングアーティスト公募展 “いい芽ふくら芽 in TOKYO 2023”」
/ 大丸東京店 / 東京

2022年 「Young Art Tohoku」 / GALLERY A8T / 宮城

<主な受賞歴>

2023年 「第60回宮城県芸術祭絵画展 (公募の部)」宮城県芸術協会賞 (最高賞)

2023年 「KENZAN2023」オーディエンス賞第2位

2022年 「LUXEMBOURG ART PRIZE 2022」2022年度の公式認定芸術家としてルクセンブルグの美術館
Pinacothèque より芸術功績認定証書を授与

2020年 「The10th International Triennial of Paper」入選 / Musée de Charmey (スイス)

<ステートメント>

私の制作スタイルは切り絵です。

私は、紙を切るというシンプルな手法でどこまで細密な表現が出来るのか、曲線と直線でどんな表現が出来るのかという探究心で切り絵を続けてきました。

私は、切るという行為を私達人間を含めた全ての『生命』の誕生と考えています。

DNAを元に細胞が分裂し形を形成していく。私の切り絵の線は、生命体の神経であり、血管であり細胞達なのです。母体の中で、2つのDNAから新しい生命の核が出来、そこから約10ヶ月間に手足や眼や口、心臓、脳、神経等を形成していきます。何億という年月を経ても、命の誕生は人為を超える奇跡があります。私は命の奇跡を切り絵という手法で表現していきたいのです。

OMJOOSOO オムチュス



Instagram

1982年 岩手県出身
朝鮮大学 美術科研究院卒業

<主な展示>

2023年 「STEPPING INTO A WORLD」 / Gallery Max New York / ニューヨーク
2019年 個展「OMJOOSOO Solo Exhibition」 / REIJINSHAGALLERY / 東京
2017年 「第12回 TAGBOAT AWARD 入選者グループ展」 / 世田谷ものづくり学校 / 東京
2008年 「ZAINICHIART」 / The Foundry Gallery / 上海

<主な受賞歴>

2023年 「ニューヨーク公募展アートインキュベーション」 準優秀賞
2018年 「Independent Tokyo2018」 野口和男賞 / REIJINSHAGALLERY
2017年 「第12回 TAGBOAT AWARD」 審査員特別賞（徳光健治賞）

<ステートメント>

在日コリアン3世として日本で生まれ育ち、私は常に自らのアイデンティティにジレンマを抱えています。

染み付いてしまったジレンマはもはや私の体の一部で、それは変わることなく人生の一部であり続けるのだと嫌気がさしていた時、私は様々な国の人々と対話する経験をしました。

その中で、血というものは全ての人間に流れるただの赤い液体でしかなく、そんなくならない愛着やジレンマなんて捨てた方が良いのだという解放と喜びから私の作品表現は生まれました。

私達の体や血は細胞の集合体であり、目に見えない何かが気づかぬうちに腫れあがって行く様は、この社会や地球の姿そのものとリンクしているのではないかと思います。

そして、この世界で私達は社会の細胞として生きながら、絶えず”生と死”を同時に生み出し、この世界を生き抜くための”薬と毒”を生み出しています。

私は創作表現を通し、表裏一体である”生と死”、“薬と毒”を描くことで、この社会に溢れる偏見の解体と新しい視点の獲得、そして潜在意識の解放を試みています。

數本冨英佳 Saeka Kazumoto



Instagram

1993年 宮城県仙台市出身
東北芸術工科大学卒業

<主な展示>

2024年 「新春小品展 2024」 / The Artcomplex Center of Tokyo / 東京
2023年 「山本冬彦推薦作家展 16」 / 銀座中央ギャラリー / 東京
2023年 「若手作家 6 人展 -biosphere-」 / 晩翠画廊 / 仙台
2023年 「合縁奇縁」 / SARP / 仙台

<主な受賞歴>

2023年 「第 60 回宮城県芸術祭 絵画展」 宮城県芸術祭賞
2022年 「第 59 回宮城県芸術祭 絵画展」 河北新報社賞
2019年 「第 56 回宮城県芸術祭 絵画展」 宮城県知事賞
2019年 「第 82 回河北美術展」 東北福祉大学賞

<ステートメント>

日本画でありながらも、型にはまらないモチーフや画材を使った作風を意識し制作している。
作品のモデルは少女や女性が多く、純粹無垢な幼子の持つ秘めた怪しさや、美しく儂いものの持つ醜く鋭利であやふやな世界を描いてゆく。

亀山晴香 Haruka Kameyama



Instagram

1998年 宮城県出身

東北芸術工科大学大学院 芸術文化専攻絵画領域修了

<主な展示>

2024年 「ARTS Students STARS Vol.3」 / +ART GALLERY(東急プラザ) / 東京

2024年 「TOHOKU⇄TOKYO ART 展 Vol.1」 / LOVUS GALLERY / 東京

2023年 個展「WATER MIRROR」 / Shalom Shalom / 台湾

<ステートメント>

「娯楽」と「矛盾」をキーワードに、玩具などを用いて作られたジオラマ写真とキャラクターのアナログペインティングを融合した作品や、スマートフォン用画像加工アプリを制作技法として加える作品などを主に制作している。

描画されたキャラクターや加工されたモチーフが持つ見た目的なポップさとは裏腹に与えられた不遇な設定や奇妙さを作品の中で一緒くたにすることで、善し悪しが面白さとして一纏めにされたある種の幼児向けアニメのような軽快かつ娯楽的な世界観を展開している。

川村香月 Katsuki Kawamura



HP



Instagram

1991年 東京都目黒区出身

京都造形芸術大学大学院 修士課程ペインティング領域修了

<主な展示>

2024年 個展「日本画家 川村香月 個展 ～花と猫～」/ 緒絶の館 / 古川、SARP / 仙台

2021年 「自画像展」/ 秋保の杜佐々木美術館&人形館 / 秋保

2019年 「『交響のソロ』11人の作家に見るみやぎ美術のいま」/ カメイ美術館 / 仙台

2019年 受注制作「平成の花天井画プロジェクト」/ 中津山香積寺 / 石巻

2018年 「第10回宮城野高校日本画OB展みののこ展」/ せんだいメディアテーク / 仙台

2017年 個展「日本画家 川村香月 初個展」/ SARP / 仙台

<主な受賞歴>

2024年 「Seed 山種美術館日本画アワード 2024—未来をにう日本画新世代—」奨励賞

2023年 「再興第108回院展」入選（第100回も入選）

2023年 「第78回 春の院展」入選

2016年 「第26回臥龍桜日本画大賞展」桜賞（第25回同賞、第27回入選）

2015年 「京展」入選（2014年も入賞）

<ステートメント>

普段は、桜や猫など、自分にとって身近なものをモチーフに描いています。

使用画材は主に、膠、和紙、墨、岩絵の具など日本画材とよばれるものです。

描くうえで私が大切にしていることは、本質的な写実表現の追究です。

この写実とは、単にモチーフを具象的にそっくり描くことではなく、描き手がモチーフと対峙したときに五感を通して感じたものを画面に投影させることです。東洋絵画では「写意」といわれてきました。

自分が対峙していた時間や空間を、鑑賞する人と共有できるような絵を描いていきたいと思います。

今野裕結 Hiromu Konno



YouTube



Instagram

1993年 宮城県岩沼市出身

宮城教育大学大学院教育学研究科 修士課程 教科教育専攻美術教育専修修了

<主な展示>

2023年 個展「ネクサス絵画展一視覚の境界一」/ SPAN ART GALLERY / 東京

2022年 「Young Art Tohoku」/ GALLERY A8T / 仙台

2021年 「ALDILA' Beyond the obvious Hyperaesthesia Onerica」/ M.A.D.S. ART GALLERY / ミラノ、
フェルテベントゥラ島

2019年 「ONE ART TAIPEI 2019」/ THE SHERWOOD TAIPEI : 台北西華飯店 / 台北

<主な受賞歴>

2021年 「XANALIA NFT ART AWARDS 2021」入賞

2018年 「第55回 宮城県芸術祭 絵画展（公募の部）」優秀賞

2018年 「リアス・アーク美術館公募展 LANDSCAPE of N.E.Vol.5 東北・北海道の風景」最優秀賞

2018年 国立大学法人宮城教育大学 学長賞

<ステートメント>

2015年より色反転画を制作。鑑賞者が自身のスマートフォンを通して絵画作品を鑑賞する方法は、美術館等における伝統的な絵画鑑賞の在り方（撮影禁止・接近禁止・静寂空間）に巨石を投じる形となった。2017年に初めて発表した際は批判と称賛が飛び交ったが、現在は国内外で発表している。2019年に論文を発表して以降、鑑賞者との繋がりによって完成する絵画作品を「ネクサス絵画」と定義した。2020年からは発光画を制作。スマートフォンをかざしたり、電気を消したり、時間が流れて夜になったりすることで作品の見え方が変化する作品を手掛けている。絵画ではなく、鑑賞者を動かすなど、絵画鑑賞を拡張した表現に取り組んでいる。

さかいふうか Fuka Sakai



Instagram

2001年 宮城県出身
東北生活文化大学 美術学部 美術表現学科卒業

<主な展示>

- 2024年 個展「神様のいないせかいで」中本誠司現代美術館 / 仙台
- 2024年 「胎に刺さったリボン」/ SARP 仙台アーティストランプレイス / 仙台
- 2023年 「めがすとらくちゃー」/ SARP 仙台アーティストランプレイス / 仙台
- 2023年 「考える足と葦展」/ 中本誠司現代美術館 / 仙台

<主な受賞歴>

- 2023年 「Liquitex THE CHALLENGE」入選
- 2023年 「第50回 東北生活文化大学 美術表現学科 学科内コンクール」最優秀賞 中本誠司現代美術館賞
- 2023年 「第60回宮城県芸術祭 絵画展 公募の部」奨励賞
- 2023年 晩翠画廊 × 一ノ蔵「第2回お酒のラベルコンテスト」入選

<ステートメント>

アクリル画家。

少女像や花、果実などを主なモチーフとして扱い、自身の精神世界を表現する。

大学の卒業制作ではインスタレーション作品を制作するなど表現の幅を広げつつ活動している。

Instagram→@fuka_mizutama

佐々木莉央 Rio Sasaki



Instagram

1993年 宮城県仙台市出身

宮城教育大学 大学院 修士課程 教科教育専攻 美術教育専修修了

<主な展示>

2024年 「動物 × どうぶつ × Dohbutsu vol.3」 / 晩翠画廊 / 仙台

2023年 「晩翠画廊・開廊 26周年感謝祭」 / 晩翠画廊 / 仙台

2023年 「白い群れ」 / せんだいメディアテーク / 仙台

<主な受賞歴>

2018年 「第55回宮城県芸術祭 彫刻部」 宮城県知事賞

2017年 「第54回宮城県芸術祭 彫刻部」 菅野美術館賞

2016年 「第90回国展 彫刻部」 彫刻部奨励賞

<ステートメント>

自然界の生き物たちが持つ美しさ、力強さ、繊細さを再現することで、鑑賞者にその存在感を感じさせたいと考えています。木材の持つ温かみや質感を活かしつつ、生物の形態や特徴を捉えることで、自然との調和を表現しています。生物を観察し、対話する過程の中で自然界の神秘に触れ、その美しさや複雑さに感動しました。私の作品が、鑑賞者に自然の驚異と共存の美しさを伝える一つになればと考えています。

佐藤唯 Yui Sato



HP



Instagram

1990年 宮城県仙台市出身
東北芸術工科大学 芸術学部美術科 洋画コース卒業 H

<主な展示>

- 2022年 「Young Art Tohoku」 / GALLERY A8T / 仙台
- 2021年 個展「佐藤唯 展 - Build -」 / ゆう画廊 / 銀座
- 2018年 「青山ゼミ ノイラートの船」 / 三越 / 仙台
- 2015年 個展「0.2 - 2度目の放浪 -」 / 画廊るたん / 銀座

<主な受賞歴>

- 2021年 「第47回現代童画展」入選
- 2016年 「第30回パリ国際サロン ドローイング・コンクール」ユニバーサル・デザール賞
- 2012年 「第80回独立展」入選（以降、現在まで入選）

<ステートメント>

空飛ぶ島、小惑星、異形の物体、卵の上に建つ家や城、そして薔薇。それらは僕という人格を形作るモノであり、僕がその時感じたモノを多彩な色の油絵の具を用いて現実と異なる形に描いている。

世界は多様性やコンプライアンスを掲げているが、同時に生き辛さも生じている。それらは一つ一つの存在や物事が決して一つの色で出来てない事を受け止められてないから。希望か絶望か、自由か不自由か、現実か虚構か、一方に決められる程シンプルではない。

僕は多様なモノにも目を向けながら、自分の内側の感性と外側の刺激を保ちつつ、異なるモノ同士を組み合わせた世界を多色の絵の具に込めて描き、自由や個性、アイデンティティ等を探求していきたい。

佐藤結 Yu Sato



Instagram

1996年 宮城県仙台市出身
宮城教育大学 大学院美術教育専修修了

<主な展示>

- 2023年 「たましいの夢つ路」 / Quarter Studio / 仙台
- 2021年 個展「佐藤結展 - 掌中の珠 -」 / GALLERY NAO / 六本木
- 2020年 「SELECTED ILLUSTRATION in SHIBUYA Girls」 / 西武渋谷店 / 渋谷
- 2019年 個展「佐藤結展 - 胡蝶の夢 -」 / GALLERY NAO / 六本木

<主な受賞歴>

- 2022年 「第59回宮城県芸術祭絵画展」 宮城文化振興財団賞受賞
- 2020年 「第73回塩竈市美術展」 塩竈市芸術文化協会会長賞
- 2020年 「第57回宮城県芸術祭絵画展」 宮城県芸術祭賞受賞
- 2017年 「蒼龍ワインラベルコンペⅧ」 ヴィンテージルージュ賞受賞

<ステートメント>

私の作品作りは木との出会いから始まります。

出会った木に電熱ペンで熱を加え、焦げの濃淡で描く「焼き絵」と呼ばれる技法を用いて、女性と蝶をモチーフに描いています。

人の感情というものは複雑で、言葉にできない想いというものがたくさんあると思っています。うまく言葉にできなくとも確かにそこにある感情、秘めた思い…。木が生きた証である木目の唯一無二の美しさを活かしながら、女性の秘めた「想い」を焼きつける。そんな作品を目指しています。

焼き付けた「想い」を蝶と女性との物語を紡いでいくようにご覧ください。

しょうじこずえ Kozue Shoji



Instagram

1988年 宮城県山元町出身

東北生活文化大学 家政学部 生活美術学科卒業

<主な展示>

2023年 個展「しょうじこずえ展—charm—」/ Gallery 来舎 kiya 梅猫庵 / 東京

2023年 個展「しょうじこずえ展—まなざし—」/ アートスペース無可有の郷 / 宮城・柴田町

2023年 個展「しょうじこずえ展—いのち、いろいろ。—」/ ビルド・フルーガス / 宮城・塩竈市

<主な受賞歴>

2020年 「第57回宮城県芸術祭 彫刻展」宮城県芸術祭賞

2017年 「MONSTER Exhibition2017」優秀賞

2016年 「見参-KENZAN-2016」オーディエンス新人賞

2011年 「第43回卒業制作展」買い取り賞

<ステートメント>

生き物や自然、ふるさとを愛し、布貼り絵やコラージュ・刺繍・ペン画・彫刻・ライブペイントなど、様々な素材や手法で表現活動をしています。今回の展示でご紹介している「布貼り絵」作品は様々な絵柄や質感のハギレを貼り合わせ、刺繍を施し制作しています。

ハギレの多くはこれまで作品をご覧くださった方やご縁で譲り受けたものです。

ひとつひとつのハギレには様々なストーリーがあり、縁あって私の所へ来てくれました。ハギレを手に取りながらストーリーを想像するだけでとても愛おしい気持ちとなり、常にいのち(温もり)を感じています。

作品を通じて、その“いのち”を感じていただけましたら幸いです。

TOKIWA トキワ



Instagram

2001年 山形県出身

東北生活文化大学 美術学部 美術表現学科卒業

<主な展示>

2024年 「FICTION」 / 新宿眼科画廊 / 東京

2024年 「胎に刺さったリボン」 / SARP 仙台アーティストランプレイス / 仙台

2023年 「めがすとらくちゃー；」 / SARP 仙台アーティストランプレイス / 仙台

2023年 「ルミナスアートラボ」 / イロリムラ / 大阪

<主な受賞歴>

2023年 「第60回宮城県芸術協会絵画展公募の部」 奨励賞

<ステートメント>

ブツ刺さりの作品を見た時、頭に電撃が流れ目頭が熱くなり心臓がバクバクする。

絵を描きたいって気持ちめキメキ湧いてきて内側からエネルギーが溢れ出てくる感じ。

(精神的エネルギーを削ってやる) 自分の手の速さと脳みそが追いついてなくてもどかしくなる。

早く出力したい、早く！って信号を出され思うがままにうごかす。

理性は大事。

呼吸が感じられる絵が描きたい。

蓮實吏生 Rio Hasumi



Instagram

2002年 埼玉県熊谷市出身
東北芸術工科大学在学中

<主な展示>

- 2023年 「OS EXHIBITION」 / STUDIO CORE'LA / 山形
- 2022年 「100号展」 / 東北芸術工科大学 / 山形
- 2022年 「吾妻祭」 / 山形大学米沢キャンパス / 山形
- 2021年 「100号展」 / 東北芸術工科大学 / 山形

<ステートメント>

近未来では創作物にウイルスが感染し「バグった」状態になったことで、作家の意図と作品が分離しオリジナリティを失った。私をウイルスと仮定し、私以外の制作した作品を「バグらせた」作品による、絵画とコンセプトが分離した並行世界のシミュレーション。

正確な情報を手に入れられなくなった（バグった）世界で人々はどう情報を解釈し生活していくのか。私以外の制作した絵画作品の上から、私を象徴するキャラクターや色彩を使い「バグらせる」。現在では家庭用ゲーム機で過去に起こっていたデバックは少なくなり、「バグった」画面を見ることがほとんどないが、意図的に機械に負荷をかけ不具合の起きた画面を見するというインターネット文化が存在し、これをインスパイアしたものが私の作品形態。作為的に情報が改竄されたメディアを再現する。

横山信人 Nobuto Yokoyama



Instagram

1979年 宮城県石巻市出身

宮城教育大学 大学院教科教育専攻 美術教育専修修了

<主な展示>

2023年 「佐々木美術館 10周年記念リレー展」 / 秋保佐々木美術館 / 仙台

2018年 「TARO 賞」 / 川崎市岡本太郎美術館 / 神奈川

2017年 「横山信人展 <未来→今→過去へと構築する日常>」 / 奈義町現代美術館 / 岡山

2014年 「N.E. blood vol.53」 / リアスアーク美術館 / 気仙沼

<主な受賞歴>

2018年 「河北美術展」彫刻 河北賞

2015年 「宮城県芸術選奨 新人賞」

<ステートメント>

イメージにユーモアを被せて作品にしています。

わらおびびし Bibishi Warao



Instagram

1987年 宮城県仙台市出身

東北生活文化大学 家政学部 生活美術学科卒業

<主な展示>

2023年 「晩翠画廊・開廊26周年感謝祭」/ 晩翠画廊 / 仙台

2023年 「山本冬彦推薦作家展17」/ 銀座中央ギャラリー / 東京

2019年 個展「waraobbc Human multilayer」/ Art Lab TOKYO / 東京

2017年 個展「WARAO BBC exhibition -community-」/ 晩翠画廊 / 仙台

<ステートメント>

私は人の言葉には現れない、表現できない内面について考えながら制作をします。

自分の考えを伝え、相手の考えを知ろうとする。

人は様々な方法でコミュニケーションを取りながら生きていますが、どのような方法にせよ、完全に伝える・知ることは難しく、また伝えようとする事自体が苦手な人も少なくありません。

現代はSNSなど、考えを発信しやすく、目にしやすい時代ですが、その分、言葉にできない、しない人の考えが見落とされやすいとも感じます。わかりやすく伝えてくれなくても、それぞれの考え方や感じ方があり、それは一体どういうものなのか、考えることができます。何も言わなくても、褒めているかもしれないし、怒っているのかもしれない。

アートを観て、答えがなくとも何が表現されているのか考え、話し、楽しむ事と同じように、新しい気づきはそういったところにあるのかなと思います。